

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100%）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80%以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60%程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60%程度未満）

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>5. 学生の受け入れ</b>  <b>【計画27】（入試事務部）</b>            本学の理念・目的及びそれに基づく「入学者受け入れの方針」を、様々な方法を通じて社会に周知するとともに、社会状況や時勢に基づく検証を行い、必要に応じ改善を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 大学の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトでも公表する。さらに、各種の学生募集イベントやオープンキャンパスで受験生・保護者等への周知を図る。            2. 入学者選抜の方法の変更にともない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。            3. 高大接続システム改革に基づき、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた「入学者受け入れの方針」において、学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体性を持ち多様な人々と協議しつつ学習する態度）に関し、入学希望者に求める能力の適切な判定ができる入学者選抜の改善を図る。            4. 高校での新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜に向け、入学者選抜方法・実施方法等についての検討を行う。あわせて、共通テストでは実施せず、各大学での検討事項となった①記述式問題 ②英語の民間資格・検定等の利用についての方向性を定める。</p>	Ⅲ	<p>1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し、社会に周知を図るとともに、受験生及び関係者等に進学ガイダンスやオープンキャンパス、高校教員対象説明会等各種イベントで説明し、周知を図った。</p> <p>2. 令和6年度実施の令和7年度総合型選抜では、医療保健学部医療栄養学科、医療情報学科において、前年度まで9月、10月、11月、12月、3月の5回の総合型選抜を実施していたが、受験者数の減少もあり、令和6年度実施の総合型選抜より、9月、10月、12月の3回に集中して実施した。また、千葉看護学部看護学科では、地域指定（千葉）として実施していたが、JCHO病院との協働による入学者受け入れの方針に添った入学者の確保推進を目的として、総合型選抜（JCHO病院指定）を実施した。            ・一般選抜及び大学入学共通テスト利用入学試験では、入試日程について、昨年度は、A日程1日目、A日程2日目、B日程、C日程、特別日程（和歌山のみ）、大学入学共通テスト利用入学試験（前期）、（後期）と実施していたものを、A日程、B日程、C日程、特別日程、大学入学共通テスト利用入学試験の5日程とすることにより、高校生の年内入試への意識の高まりや一般選抜の受験者の減少に対応し、入学者の早期獲得を目指した。            ・また、立川看護学部看護学科の一般選抜A日程の選択科目について、受験者が受験しやすい科目とすることにより、より一層の志願者の確保を目的として、現行の選択科目（数学、生物、化学、生物基礎・化学基礎のうち1科目を選択）に国語を加えるよう変更した。</p> <p>3. 一般選抜特別日程は、前年度まで和歌山看護学部のみで実施してきたが、私立大学等改革総合支援事業補助金の獲得を目指し、令和6年度実施の特別日程より全学で記述式の問題（英語、国語）や面接を取り入れた入試を実施した。            ・英語の外部資格・検定の利用については、本学の受験生に合ったものとするため、利用する資格・検定の種類や点数換算の方法など検討している。英語の外部試験を導入する大学が増えてきていることもあり、他大学の状況を調査しつつ、引き続き検討していく。</p> <p>4. 新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜の実施については昨年度実施済み。</p>	<p><b>【年度計画27】</b>            1. 学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトでも公開する。各種のイベント、オープンキャンパスでの周知と浸透を図る。            2. 入学者選抜の方法の変更にともない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。            3. 前年度に引続き、前年度計画記載の高大接続システム改革に伴う記述式問題の実施等の継続検討を行う。            4. 令和7年度入試の総括と検証を行う。また、新学習指導要領に基づく入学者選抜方法の定着を図る。</p>	Ⅲ	<p>1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し、社会に周知を図るとともに、受験生及び関係者等に進学ガイダンスやオープンキャンパス、高校教員対象説明会等各種イベントで説明し、周知を図った。</p> <p>2. 令和7年度実施の令和8年度入試では、医療保健学部の学科統合・再編により、令和8年4月1日に設置する医療保健学科（管理栄養学専攻、臨床検査学専攻、医療情報学専攻、臨床工学専攻）を対象とする入試を実施すること及び令和7年度入試実績を踏まえた入試の変更を行うため、入学者受け入れの方針を見直すとともに、入学者確保に向けた入試を実施した。</p> <p>(1)総合型選抜            ①医療保健学部医療保健学科            医療栄養学科及び医療情報学科では、令和7年度入試においては、9月、10月、12月の3回に集中して実施したが、学科統合・再編により4専攻となることから、11月にも入試を実施することとし、年内4回の入試を実施した。            選抜方法は、医療情報学専攻では、令和7年度入試まで医療情報学科で実施していた課題探究型（自己推薦書、課題レポート、面接）、面接重視型（自己推薦書、面接）、資格保有型（自己推薦書、面接）の3つの選抜方式を、自己推薦書（課題探究や資格取得等の学びの実績に基づく）、面接による1つの選抜方式で実施した。また、管理栄養学専攻、臨床検査学専攻及び臨床工学専攻は、自己推薦書、課題探究型レポート、面接により選抜した。</p> <p>②千葉看護学部看護学科            令和5年度入試から地域指定（千葉）として実施した総合型選抜（出願時に千葉県に在住している者、あるいは、千葉県内の高校等に在学している者または卒業した者）は、千葉県内の志願者獲得競争の激化により、志願者数が減少してきている現状を踏まえ、地域（千葉）を指定しない総合型選抜として実施した。選抜方法は、令和7年度入試と同様、自己推薦書、課題レポート、面接により選抜した。</p> <p>(2)一般選抜            令和6年度入試より医療情報学科のみ、一般選抜A、B、C日程において、英語を必須科目から選択科目に変更し、6科目からの選択受験で高得点科目重視方式で実施していたが、令和8年度入試より医療保健学科4専攻ともに受験科目を統一して実施した。</p> <p>(3)大学入学共通テスト利用入学試験            医療保健学科臨床検査学専攻及び臨床工学専攻については、これまでの科目に物理を加えた受験科目により実施した。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の3要素に基づく入学者選抜の実施状況</li> <li>・令和7年度入試に向けた準備・実施状況及び検証</li> <li>・記述式問題の実施、英語の外部資格・検定等の利用についての検討状況、実施状況</li> </ul>			<p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度入試を念頭においた「入学者受け入れの方針」の見直しの状況と結果</li> <li>・令和7年度入試の検証</li> </ul>		<p>3. 令和6年度実施の一般選抜特別日程より全学で記述式の問題（英語、国語）や面接を取り入れた入試を実施したが、令和7年度も引き続き全学で実施し、今後も続けていく計画である。また、英語の外部資格・検定の利用については、利用する資格・検定の種類や点数換算の方法など検討しつつ、本学の入試に取り入れることができるか引き続き検討していく。</p> <p>4. 令和7年度入試では、令和6年度入試と比較し、看護学科全体の総合型選抜の志願者数は23名の増となったが、学校推薦型選抜では40名の減となり、年内入試の志願者数は17名の減となった。年明け入試（一般選抜、大学入学共通テスト利用入学試験）についても、昨年度と比較し169名の減となり、看護学科全体の志願者数は186名の減となった。</p> <p>また、新たに設置する医療保健学科の令和7年度入試では、令和6年度と比較し、管理栄養学専攻の総合型選抜の志願者数は5名の減、学校推薦型選抜では7名の減となり、年内入試の志願者数は12名の減となった。年明け入試についても22名の減となり、管理栄養学専攻の志願者数は全体で34名の減となった。このことにより、令和8年度入学者数は、昨年度より16名減少し、入学定員充足率は53%に留まった。臨床検査学専攻の総合型選抜の志願者数は3名の増、学校推薦型選抜では2名の減となり、年内入試の志願者数は1名の増となった。年明け入試については10名の減となり、臨床検査学専攻の志願者数は全体で9名の減となった。このことにより、令和8年度入学者数は、昨年度より2名減少したが、入学定員は充足した。医療情報学専攻の総合型選抜の志願者数は9名の増、学校推薦型選抜では昨年同数となり、年内入試の志願者数は9名の増となった。年明け入試については6名の減となり、医療情報学専攻の志願者数は全体で15名の増となった。このことにより、令和8年度入学者数は、昨年度より7名増加した。新たに設置する臨床工学専攻は、年内入試で3名の志願者、年明け入試で27名の志願者を集めたが、初年度の入学者数は4名となり、大変厳しい結果となった。</p> <p>18歳人口が減少する今後、より多くの志願者を獲得し、優秀な学生を確保する方策を全学で取り組んでいく。</p> <p>また、新学習指導要領に基づく入学者選抜の実施については作問に反映させ定着させている。</p>				

第3期中期計画	令和6年度実績	令和7年度計画	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>【計画28】（入試事務部）</b>            入学者選抜試験の実施内容について、学部・研究科等の特色・特徴等を踏まえた改善・充実を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 入学者選抜試験問題について、「入学者受け入れの方針」に基づき適切に作成することとし、試験問題にミス等が生じないようチェック体制を徹底する。            2. 入学者選抜試験会場において、入試実施上の注意事項の徹底を図るとともに、試験監督を厳正に行う等入学者選抜試験を公正かつ適切に実施する。            3. 入学者選抜における合否判定を公正に行い、入学者選抜試験関係業務を適切に実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・入学者選抜における作問ミスの発生防止の取組状況            ・入試実施にともなうトラブル等の発生防止の取組状況</p>	<p>IV</p> <p>1. 入学者選抜試験問題の作問ミス、解答ミスの防止や公正な試験運用に関しては、十分に注意を払い実施し、外部の第三者機関による査読、問題チェックを経て作問者が各日程の試験問題を作成し、学内入試担当委員での最終確認を行うことにより、出題ミスの発生防止に努めた。            2. 入試実施においては、実施要項、監督要項を作成するとともに学内で教職員に対する説明会を実施し、円滑な入試実施に努めた。            ・入試当日に受験生からの質問や試験監督者からの問い合わせについて、その場で入試実施委員と協議し、適切な回答をすることにより、トラブルに発展しないよう努めた。            ・年度終了後には、各学部に入試実施に関する振り返りを依頼し、出てきた課題や意見を次年度の入試運営に反映できるように実施した。            3. 研究科の入試については、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定した。</p>	<p><b>【年度計画28】</b>            1. 一般選抜においては、作問者の作成した試験問題を、外部の第三者機関による査読及び問題チェックを実施し、作問ミス、解答ミスの撲滅に努める。さらに入試担当委員が最終確認を行い、ミスの発生を防ぐ。また総合型選抜、学校推薦型選抜の入試においても、各学科の入試担当委員が水際のチェックを行い、ミスが生じないように努める。            2. 入試実施にあたっては、実施要項の熟読、教職員向けの説明会等により、入試実施上の注意事項を徹底する。            3. 研究科の入試については、研究科ごとに実施しており、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・入学者選抜における作問ミス等の発生防止の取組状況            ・入試実施上のトラブル等の発生防止の取組状況</p>	<p>IV</p> <p>1. 入学者選抜試験問題の作問ミス、解答ミスの防止や公正な試験運用に関しては、前年同様、十分に注意を払い実施し、外部の第三者機関による査読、問題チェックを経て作問者が各日程の試験問題を作成し、学内入試担当委員での最終確認を行うことにより、出題ミスの発生防止に努めた。今年度は全日程で問題訂正がなかった。            2. 入試実施においては、実施要項、監督要項を作成するとともに学内で教職員に対する説明会を実施し、このことを定着させ、円滑な入試実施に努めた。            ・年度終了後には、各学部に入試実施に関する振り返りを依頼し、出てきた課題や意見を次年度の入試運営に反映させる。            3. 研究科の入試については、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定した。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【計画29】（入試事務部）</b> 学部・研究科等の入学定員に基づき、適切な入学者数を受け入れるとともに収容定員の適正な管理に努める。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学部入試における全学部・全学科の入学定員達成をめざす。そのための各入試区分での学生募集、出願者増に向けた活動に注力する。</p> <p>2. 収容定員割れとなっている医療栄養学科、医療情報学科の収容定員充足を図る。</p> <p>3. 収容定員の充足のため、入学定員の達成とともに退学者動向も視野に入れた取組を行う。</p>	Ⅲ	<p>1. 志願者確保に向け、首都圏では、入試広報部が学生募集活動の一環として行う高等学校への訪問、出張講義及び説明会により、本学の強みである提携病院との連携や学修環境の充実さ、各学部の学びの特色をわかりやすく丁寧に説明することや、大学案内や大学Webサイト及びSNSを活用した学生募集活動により、高校生の関心を高め、本学を志願先として検討させる取り組みを引き続き行った。また、高大接続を強化するため各高校の進路指導の目的を踏まえながら、高校側のニーズに合った独自の出張講義を提案、実施した。</p> <p>また、和歌山看護学部では、学部のPR 機会を持つために、高等学校内で開催される出前授業や進学説明会に力を入れ、和歌山県下の高等学校の進路指導担当者への直接訪問を行い、各高等学校で独自の大学説明会や進学相談会を実施した。学生募集担当者が和歌山県下の高等学校を訪問し、高等学校での大学説明会、進路説明会、入試説明会を実施した。また、高校生が来校して実施する体験講義や和歌山看護学部教員が各高等学校で行う出張講義も実施した。</p> <p>上記の活動により、各学部看護学科では、収容定員を踏まえた入学者を確保することができた。</p> <p>2. 医療保健学部医療栄養学科は、令和6年度に管理栄養学専攻と臨床検査学専攻の2専攻を設置したことにより、学科入学定員100名に対する入学者数は、管理栄養学専攻66名、臨床検査学専攻14名の学科合計80名となり前年（54名）に比べて増加させた。令和6年度に実施した令和7年度入試では、管理栄養学専攻52名、臨床検査学専攻40名の合計92名の入学者となり、医療栄養学科の入学定員充足まであと少しとなった。学科の収容定員充足率（5月1日現在）は、令和4年度0.86、令和5年度0.72、令和6年度0.67、令和7年度0.65となった。また、医療保健学部医療情報学科は、入学定員80名に対する入学者は、令和4年度53名、令和5年度48名、令和6年度33名、令和7年度26名と推移し、令和2年以降急激な入学者減という課題に直面している。学科の収容定員充足率（5月1日現在）は、令和4年度0.87、令和5年度0.83、令和6年度0.67、令和7年度0.48となった。</p> <p>学科単位で見ると、医療栄養学科、医療情報学科ともに令和6年度から急激に収容定員充足率が下がり、0.7を下回っていることを踏まえ、医療保健学部の学科統合・再編計画を新たに実行することとし、文部科学省に対し、医療保健学科の設置の届出を行うことにより、今後、医療保健学部の収容定員充足を図っていく。</p> <p>3. 出席が芳しくない学生について、教職員が学務システムのCampusPlanからのアラートによる監視ができるようシステムを構築し、令和6年度にはテスト運用を行い、令和7年度中に本運用に移行できるよう検討を進めている。また、保護者向けのポータルとしてアンシンサイトを導入し、令和7年度から学生の学修実態を保護者と共有することにより、退学予備軍を早期に洗い出してフォローアップしていく取り組みを進めているところ。</p>	<p><b>【年度計画29】</b> 1. 入学定員を全学部・全学科及び各研究科で充足させる。そのため、各入試区分での受験者ニーズに合った学生募集イベントを実施し、それぞれの入試区分に適用した受験生増をめざす。</p> <p>2. 収容定員割れとなっている医療栄養学科、医療情報学科の収容定員充足を図る。更に、令和8年度から新設される医療保健学科の入学者確保のため、様々な取り組みを実施する。</p> <p>3. 退学者減少に向けての取組や対策を検討する。</p>	Ⅱ	<p>1. 高校に対し出張講義（出前授業）を提案し、持続的な高大連携関係の更なる強化を図った。また、オープンキャンパス等の全学イベントについては、各キャンパスにおいて各学部各学科単位で実施し、模擬授業や各職種をイメージできるような体験授業、病院見学やキャンパスツアー、保護者向け奨学金説明、国家試験への取り組み、入試個別相談や在校生との交流の場を多く設け、高校生や保護者と直接的に対話する機会を重視した。世田谷キャンパスの医療保健学科については、学科独自のミニオープンキャンパスや放課後の時間帯を利用した個別見学会、オンラインでの入試相談なども実施した。看護医療系予備校との連携をさらに強化し、特に都内、横浜、大宮、千葉エリアの5校で説明会を開催した。</p> <p>また、和歌山看護学部では、前年度同様に、高等学校内で開催される出前授業や進学説明会に力を入れ、和歌山県下の高等学校の進路指導担当者への直接訪問を行い、各高等学校で独自の大学説明会や進学相談会を実施した。学生募集担当者が和歌山県下の高等学校を訪問し、高等学校での大学説明会、進路説明会、入試説明会を実施した。また、高校生が来校して実施する体験講義や和歌山看護学部教員が各高等学校で行う出張講義も実施した。</p> <p>2. 令和8年度に設置する医療保健学科については、学生募集においてその目標が達せられず、大変厳しい状況となった。令和7年度に実施した令和8年度入試では、管理栄養学専攻36名、臨床検査学専攻38名、医療情報学専攻33名、臨床工学専攻4名の合計111名の入学者となり、医療保健学科の入学定員充足率は0.69となった。とりわけ、管理栄養学専攻は、入学定員68名に対し36名の入学者であり、臨床工学専攻は、目標としている30名の入学者を大きく下回った結果となった。</p> <p>医療情報学専攻については、スポーツ分野の学びを副専攻として入れる方向性を示したことから入学者の大幅な減少には至らなかったものの、臨床工学専攻については認知度不足により大変厳しい結果となった。また、臨床検査学専攻の入学者は昨年度に引き続き好調な状況である一方で、管理栄養学専攻の入学者が大幅な減少という結果になり、新たな対策が必要な状況となっている。次年度に向けて、さらなる対策を講じ、定員の確保に努める。</p> <p>3. 退学者減少に向けた取り組みとして、学研グループとの提携を活かしてプレースメントテストの全学一元化するとともに、難易度を引き下げた。これにより基礎学力が不足していることに起因して留年・退学リスクが高い学生を可視化し、早期介入を図る一助となった。</p> <p>また、欠員が生じた場合には、編入学を受け入れることを可能とするための規程整備を行った。</p>		

第3期中期計画	令和6年度実績	令和7年度計画	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p>4. 和歌山看護学部の実員増を検討する。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年度の入学者実績の検証</li> <li>・医療保健学科の入学者数の状況</li> <li>・上記にともなう収容定員の検証</li> <li>・退学者動向の把握</li> <li>・（和歌山看護学部の実員検討のための）入学定員超過率(1.15)の状況の確認</li> </ul> <p>【計画30】（入試広報部）</p> <p>全学部・全学科の入学定員確保に向けて、募集活動の強化と高大連携・高大接続の構築を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大連携関係の強化を図る。</li> <li>2. オープンキャンパスや入試説明会などイベント内容の充実を図るとともに、様々な方法での情報発信の強化を図る。</li> <li>3. 大学案内及び大学紹介パンフレットの刷新とSNS等情報発信の強化を図る。</li> <li>4. 地域性を重視した高校訪問活動（塾等含む）の強化を図る。</li> </ol>	<p>4. 令和6年度に和歌山看護学部の入学定員増の申請ができるよう、令和5年度実施の令和6年度入試においては、学部ごとの収容定員を適正値とするため、常に在籍者数を把握するとともに、入学予定者数をチェックしつつ、合格者及び追加合格者の決定を行った結果、収容定員を適正化することができ、文科省への認可申請の結果、令和7年度より入学定員の増が認可された。</p> <p>II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「総合的な探究の時間」に注力している高校や、進路探究とといった独自の進路指導を展開している高校に対して、「医療系教養講座」などの出張講義（出前授業）の実施を提案し、持続的な高大連携関係の構築に努めた。その結果、首都圏を中心に出張講義の新規校も増加し、さらに前年からの継続校も含め、多くの高校との連携関係が強化された。</li> <li>2. オープンキャンパスなどのイベントについては、全学でのイベントと各学部学科単位でのイベントに分かれて、各キャンパス主体で取り組んだ。参加者には当日のプログラム内容を事前に告知し、当日は参加者主体の自由移動形式とするなど、コロナ禍前の形式も導入した。さらに参加した高校生が主体的に参加できる内容の充実を図ると共に、在学生や卒業生との交流の場を設定し、キャンパスライフや学びの説明、入試体験談など高校生が知りたい情報について直接対話できる機会を提供した。</li> </ol>	<p>4. 収容定員を念頭においた入学者確保を意識する。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の入学者実績と各学科（特に医療栄養学科、医療情報学科）の収容定員の検証</li> <li>・医療保健学科の入学者数の状況</li> <li>・前年度の退学者実績の把握</li> <li>・（和歌山看護学部の定員検討のための）入学定員超過率(1.15)の確保と申請年度検討</li> </ul> <p>【年度計画30】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新学習指導要領の「総合的な探究の時間」と連携・連動した内容の出張講義を実施する。</li> <li>2. コロナ禍で培った経験に基づき、来校型イベントに限定せず、オンライン型と併用したハイブリッド型イベント等を実施する。また、新たな方法についても試行的に実施する。</li> </ol>	<p>III</p> <p>4. 本件、文科省への認可申請の結果、令和7年度より入学定員の増が認可された。</p> <p>令和7年度に実施した令和8年度入学者選抜では、和歌山県立医科大学の合格者の影響が相当数あり、和歌山看護学部看護学科の入学者は、募集定員100名に対し98名となった。次年度入学定員確保に向け、連携校との取り組みを強化していく。</p> <p>II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進路探究に注力している高校に対して、入試広報部独自の出張講義（出前授業）を提案し、持続的な高大連携関係の更なる強化を図った。実施した高校数は、首都圏を中心に新規校も含めて107校。また、看護医療系予備校5校でも展開し、看護医療系大学としてのブランド力向上に務めた。</li> <li>2. オープンキャンパス等の全学イベントについては、各キャンパスにおいて各学部各学科単位で実施し、模擬授業や各職種をイメージできるような体験授業、病院見学やキャンパスツアー、保護者向け奨学金説明、国家試験への取り組み、入試個別相談や在校生との交流の場を多く設け、高校生や保護者と直接的に対話する機会を重視した。また、世田谷キャンパスの医療保健学科については、学科独自のミニオープンキャンパスや放課後の時間帯を利用した個別見学会、オンラインでの入試相談なども実施した。</li> </ol>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>「評価指標」 ・全学部・全学科の定員確保状況及び受験競争率の確保状況</p> <p>【計画31】(和歌山看護学部) 入学の意思の高い優秀な学生を確保するために、多様な入試選抜の下、受験者数を維持する。</p>	<p>3. 大学案内については、①本学の強み（学長メッセージ）と②各学科の学びと社会とのつながりについて、その内容の刷新を図り、本学の社会における位置づけを明確にし、さらなるブランド力の向上に努めた。また、新たに開設された医療保健学部医療栄養学科臨床検査学専攻の部分についてもその内容の充実が図られた。</p> <p>4. 18歳人口減少の影響もあり、本学への大学案内など、資料請求状況やイベント参加状況も近県に限られるなど大きく変化したことから、高校訪問の活動エリアも首都圏に限定した。また、高校だけでなく、個別指導塾や看護医療系予備校への訪問活動にも注力し、全学部学科の定員充足に努めた。しかしながら、一部の学科についてはその目的が達せられず、依然厳しい状況が続く結果となった。医療栄養学科については、新設の臨床検査学専攻の募集が好調であったことから、前年を上回る改善がみられたが、一方で医療情報学科については、前年をさらに下回る結果となり、大変厳しい状況下にある。この点については、令和8年4月に向けて新たに計画中の学科再編において改善を図りたいと考えている。</p>	<p>3. 令和8年度に刷新する大学案内及び大学紹介パンフレットの作成について準備を進める。</p> <p>4. 高等学校や塾への訪問活動を強化し、出張講義の獲得を目指す。特に私学との連携を強化する。</p> <p>「評価指標」 ・全学部・全学科の定員確保状況及び受験競争率の確保状況</p>	<p>3. 大学案内については、基本的に前年度の内容を踏襲し、本学の強みと医療看護系大学として本学が果たすべき社会的な役割を明確にすると共に、女子バスケットボール部の功績を強調し、さらなるブランド力の向上に繋げる内容とした。世田谷キャンパスに新設される医療保健学科については、新たな臨床工学専攻の部分を追加し、1学科4専攻についてその内容の充実を図った。</p> <p>4. 昨年同様、大学案内などの資料請求状況やイベント参加状況が首都圏（1都6県）に限られることから高校訪問活動の対象校もエリアを限定し、効率性を優先した。さらにエリア内においても当該高校からの資料請求数を優先し、営業を強化する高校群を絞った。また、看護医療系予備校との連携をさらに強化し、特に都内、横浜、大宮、千葉エリアの5校で説明会を展開した。しかしながら、今回の新たな学科である医療保健学科については、学生募集においてその目標が達せられず、大変厳しい状況である。医療情報学専攻については、スポーツ分野の学びを副専攻として入れる方向性を示したことから大幅な減少には至らなかったものの、新たな臨床工学専攻について大変厳しい結果となった。また、臨床検査学専攻は大変好調な状況である一方で、管理栄養学専攻が大幅な減少という結果になり、新たな対策が必要な状況となっている。次年度に向けて、さらなる対策を講じ、定員の確保に努める。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会 内部質保証推進会議
<p>「計画達成のための方策」</p> <p>1. 選抜区分ごとの受験生数を維持し、受験延べ人数400名を維持する。そのために、広報活動と共に大学説明会、出前授業、1日体験入学を実施する。</p> <p>2. 受験者の多い県内高校との連携協定を推進し、現在の連携高校4か所を8か所まで増やす。そのために、連携高校への大学説明会、出張講義と連携校出身学生の母校訪問での交流を1回以上行うとともに、本学部教員と高校教諭との教育指導に関する意見交換会を1回開催する。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験延べ人数、大学説明会関連行事への参加数、高校との交流回数、連携高校数、連携校との交流回数、連携校の受験者数と入学者数</li> </ul>	IV	<p>1. 大学説明会、出前講座、大学講義体験</p> <p>大学説明会は19校の高校を対象に23回、出前講座は7校の高校を対象に9回、大学講義体験は4校の高校を対象に4回行った。また、和歌山市主催の「学生支援プロジェクト」にも参加し、広報活動に努めた。大学説明会は517人、出前講座は1237人、大学講義体験は94人の高校生が参加した。</p> <p>2. 連携校連絡協議会</p> <p>連携校連絡協議会を開催し、連携高校全8校の教諭が参加した。大学の教育内容及び今後の動向、国家試験対策と合格率などの状況、学生の就職・進学支援と就職率などの状況、令和6年度入試結果および令和7年度入試についての説明を行った。1年生の「アカデミック・スキル」の講義見学を行った後、高校の先生と入試対策などについて意見交換を行った。</p> <p>3. オープンキャンパス</p> <p>計3回実施した。全オープンキャンパス、参加した高校生から概ね良好な反応が得られており、事業の目的とするところに沿った結果が得られたと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生企画オープンキャンパスを7月7日（日）に開催した。高校生が100名、保護者が40名参加した。</li> <li>・オープンキャンパスを7月28日（日）、8月11日（日）に開催した。7月は、高校生が86名、保護者が39名参加した。8月は、高校生が95名、保護者が45名参加した。</li> </ul> <p>4. 受験者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験延べ人数289名で昨年より増加した（前年度268名）。入学者数は107名。18歳人口減少及び看護師希望者減少がある中、高校生や連携校を対象とした広報活動の成果が表れたと考える。今後も、確実に入学生を確保できているよう、広報活動を続けていく。</li> </ul>	<p>「年度計画31」</p> <p>1. 広報活動と各高校を対象とする大学説明会関連行事を高校の希望に沿って実施する。</p> <p>2. 連携協定を結んだ高校との4回以上のプログラムを実施するとともに、高校教諭と本学部教員、高校生と本学部学生との交流を行う。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験延べ人数、大学説明会関連行事への参加数、高校との交流回数、連携高校数、連携校との交流回数、連携校の受験者数と入学者数</li> </ul>	IV	<p>1. 受験生数の確保に関する活動</p> <p>1) 大学説明会、出前講座、大学講義体験</p> <p>大学説明会は15校の高校を対象に19回、出前講座は4校の高校を対象に5回、大学講義体験は4校の高校を対象に4回行った。また、和歌山市主催と県進路指導研究会主催の大学説明会にも参加し、広報活動に努めた。大学説明会は380人、出前講座は330人、大学講義体験は104人の高校生が参加した。</p> <p>2) オープンキャンパス</p> <p>計3回実施した。参加した高校生から概ね良好な反応が得られており、事業の目的とするところに沿った結果が得られたと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生企画オープンキャンパスを6月15日（日）に開催した。高校生が91名、保護者が43名参加した。</li> <li>・オープンキャンパスを7月13日（日）、8月10日（日）に開催した。7月は、高校生が76名、保護者が25名参加した。8月は、高校生が133名、保護者が63名参加した。</li> </ul> <p>3) 入試説明会</p> <p>8月17日に開催した。90名の高校生の参加があった。</p> <p>4) 受験者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全入試の受験延べ人数は221名であり、合格実数は157名であった。全体の受験者数は昨年度(292名)より減少したが、総合型選抜では受験者が51名と昨年度より12名増加した。総合型選抜を通して早期に進路を決定したいと考える高校生が増えてきていることが増加の背景として考えられる。また、高校生や連携校を対象とした広報活動の成果が、受験者および入学者の確保という形で表れたものと考えられる。今後も、確実に入学生を確保していくため、広報活動を継続するとともに、入試への志向の変化を踏まえ、学生確保につながる入試のあり方について継続的に検討していくことが重要である。</li> </ul> <p>2. 連携校連絡協議会</p> <p>連携校連絡協議会を開催し、連携高校全8校の教諭が参加した。大学の教育内容及び今後の動向、国家試験対策と合格率などの状況、学生の就職・進学支援と就職率などの状況、令和7年度入試結果および令和8年度入試についての説明を行った。また、田村理事長の講和を行ない、高校の先生と入試対策などについて意見交換を行った。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p><b>【計画32】（国際交流センター、研究協力部、各事務部）</b> 国際交流センターを中核として、学生・教職員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れを積極的に行うため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を実現できるよう両大学に積極的に働きかける。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況</p>	IV	<p>(国際交流センター、研究協力部)</p> <p>1. 令和6年4月にオーストラリアのグリフィス大学との3年間の大学連携を更新した。国際交流委員会では、令和6年度から海外研修をオンライン1回、現地研修1回と実施することとし、オーストラリア研修とハワイ研修をそれぞれオンラインと現地研修とで交互に実施することとなった。それに従い、令和6年度は、9月にグリフィス大学オンライン研修、令和7年3月にはハワイ大学現地研修を実施した。 ・9月のグリフィス大学オンライン研修では、学部生・研究科生・教員16名が参加し、オーストラリアの医療、看護、臨床栄養、医療情報について講義を受けた。実施後アンケートでは100%が、「現地研修に参加できないが、海外の医療に関して学びたいと思っている学生たちにとっては、オンライン海外研修は効果的な学習の機会を提供するもので、今後も継続を望む」と回答している。 ・令和7年3月のハワイ研修に関しては、従来研修で連携していたハワイ大学看護学部やシャミナード大学が学部内再編のために受け入れが困難ということで、ハワイ大学アウトリーチカレッジが実施している2-week New Intensive Cours of English(NICEプログラム)に希望学生を派遣することになった。23名の学生が参加して、2週間の集中英語講座に参加した。宿泊は学生の希望によりハワイ大学の寮あるいはホームステイが選択された。実施後アンケートでは、研修全体に対する満足度は、大変満足71%、まあまあ満足29%を合わせると100%、また、同じく100%がこの研修を他の学生にも勧めたいと回答し、非常に高評価を得た。</p>	<p><b>【年度計画32】</b> 1. 大学間提携大学との連携関係をさらに深めるために、協力的なプロジェクトについて提携大学と検討し、提携内容をさらに充実させる。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度及び協力的なプロジェクトの実施状況 ・国際的な講演会等の開催状況</p>	IV	<p>(国際交流センター・研究協力部)</p> <p>1. 令和7年9月に10日間のグリフィス大学現地研修を実施した。総参加者数は47名であった。引率者は3名であった。事前研修2回、事後研修1回も実施した。現地研修では、学生は全期間大学斡旋の研修は1週間午前中英語の集中授業(英語会話能力別に4レベルに編成した)を受け、午後はキャンパスツアー、病院見学、介護施設見学などに参加した。研修終了後に参加学生を対象に行った参加後アンケートは74%が大変満足、24%がやや満足、2%が普通と回答し、全般的に高い評価を得た。 2. 令和8月3月に2日間のオンラインハワイ研修を行った。研修受け入れ先は、本学が2010年から研修提携を行ってきたホノルル市に位置するシャミナード大学である。参加者は、学部生・研究科22名であった。また、学生交流では、本学学生も積極的に英語で参加した。事後アンケートで大変満足と回答した学生が大半を占めた。シャミナード大学とは、今後も関係をより強固なものにして、今後は現地研修の再開なども検討していきたい。他方、コロナ禍から相当の年数が経過して対面研修を再開できていないことも事実であり、見直しが必要な時期に来ていることも事実である。 3. このため海外研修の見直しに着手し、運営主体についても従来の国際交流センター(専任の事務職員1名体制)から、単位認定権限を持つ総合教育センター(グローバル教育担当の兼任教員2名体制)への移管に着手した。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		IV	<p>(国際交流センター、研究協力部)</p> <p>2. 令和6年度の国際講演会の計画としては当初2~3回としていたが、以下の通り3回の国際講演会をオンラインで実施した。</p> <p>10月22日：「フィンランドはなぜ世界一幸せな国に選ばれ続けるのか」(講師：久末智実 タンペレ大学博士課程在籍中)。11月16日：「多職種間のチームワーク・コミュニケーションを向上させるシミュレーション訓練」(講師：Dr. Lorrie Wong ハワイ大学看護学部教務担当副学部長)。12月10日：「アフリカでの経験から看護師の視点で考える国際保健への貢献とキャリア開発」(講師：坂本琢美 メブラジャパンコンサルタント/長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科) 申込者数117名。</p> <p>(和歌山事務部)</p> <p>・近畿圏内に在住の外国人医療従事者(ベトナム)3名と本学部学生12名が参加し交流会を開催した。</p>		IV	<p>4. 令和7年度の国際講演会は、10月、11月、12月、各月1回で合計3回実施した。</p> <p>10月22日：「海外で医療職として働くために必要なこと」(講師：佐野愛梨氏、西尾雅子氏) 現在、オーストラリアで働く看護師佐野氏とかつてカナダで長年看護師として働いた西尾氏による講演は、将来海外で働きたいと思っている学生にとって関心が高く、他の回より学部生の参加者が多かった。</p> <p>11月21日：「ボランティア×医療=共に生きるということ」(講師：笠原順子氏) JICA海外協力隊看護師として働いたご自身の経験に基づいてお話ししていただいた。</p> <p>12月10日：「オランダ発ポジティブヘルスと安楽死」(講師：シャボットあかね氏) オランダ在住のシャボット氏よりオランダ人の生活に根差した健康・病気について考え方、安楽死に関する考え方について講義いただいた。活発に質疑応答が行われた(講演会シリーズ申込者数：114名)</p> <p>また、これらの講演会は単発開催であり、学生が単位を修得することができないため、令和8年度は総合教育センターが共通科目として「国際関係論」を開講できるように、体制の見直しに着手した。その一環として、令和7年に日本アジア医療福祉教育研究所との包括協定を行った。</p>		